

- ⑤ その後は色付けする部分をロー原紙で覆い、順次、黄、赤、黒と刷りを重ねる。
- ⑥ 黒へのモミモミ、緑のスクリーントーン等は別紙説明通り。

II 7月号「食事タイム」(三文字安田)

- ① 作者・横山さんに代わり、三文字さんが解説。
- ② 謄写版屋ヤスリによる2色刷りの横山さんらしい作品。
- ③ テーマの魚と餌の小魚は絵画ヤスリA、Bを使い分けて製版。茶で刷る。
- ④ 2版目は、絵画AとアートBのヤスリを組み合わせ水色の部分を製版。すり終えた1版に水色で刷り上げ完成。
- ⑤ シンプルながら魚の姿や動きの感じられるベテランならではの作品。

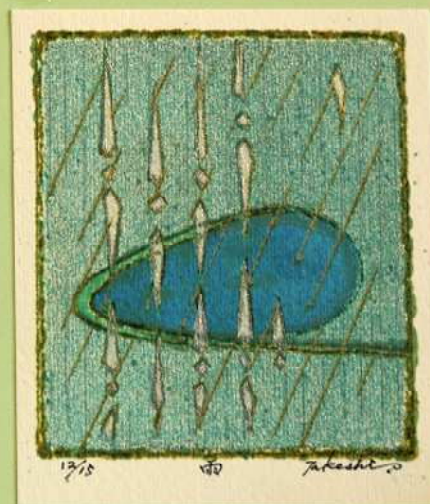
■ 典具帖ボカシのやり方について (三文字)

- ① 典具帖ボカシとは、製版後の版貼幕にごく薄い典具帖紙を張って、ゆるい絵具で刷ることにより、滲みの効果を得る手法。その後、同じ版で通常の濃さの絵の具を重ね刷りすると濃淡の変化のある2色刷りの絵が得られる。
  - ② コロジオン原紙で製版する時、筆が鉄筆(2H以下の方鉛筆でもよい)かの選択を考えると、プラスチックヤスリの代わりに布ヤスリでも可能・60番程度の荒めだと面白い効果が得られる。
  - ③ 典具帖紙の貼り付けは、版貼幕の裏が表か、1枚か2枚かによって得られる効果が違う。ティッシュ紙でもできるが、効果はいまひとつ。
  - ④ 絵具は、メジウムと灯油の量のバランスが大切。ボケ効果を得るには、メジウムに多めのコンパウンドを入れ、粘りを緩めにする。
- (参考) モミモミの効果については、旧コロジオン原紙が良く、2度程もむと良い。刷りは青→赤→黄など色の濃いものから行うこと)

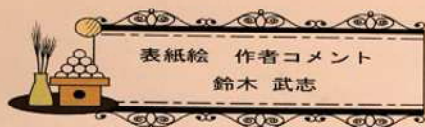
はんの会 事務局  
 〒274-0062 船橋市坪井町600-29  
 安田 彰 Tel・Fax 047-464-6870  
 ホームページ : www.hannokai.net

# はんの会

No.250  
 (8・9月合併号)



表紙絵 鈴木 武志  
 2022年9月1日発行



題名 慈雨

作品プリントの用紙を手当てしていると長らく使い方の決まらない、紙が出てきた、何紙と言うか知らないが、すこしで厚手でよく見ると表面には縦線のもよう漉き柄を浮かせた用紙で、これを雨の線としてイメージすれば雨の少ないこの頃の天候に結びつけるのもアイデアかなと思いました。

- 1版目 タイプ原紙を使って絵の外枠、沼の外枠、銀雨の枠を刷る。
- 2版目 1の版を掃除、プラスチックと骨筆で縦の雨線、追加刷り。
- 3版目 コロジオン原紙を使って沼の形を描き液で抜き、ブルーと中心に薄緑を垂らして追えて刷る。
- 4版目 版を掃除し沼のブルー部分を糊でめ、外周の緑部分抜いて緑で刷る。
- 5版目 コロジオン原紙を使ってバックの必要部分を描き抜き、シアン緑を刷り加えると用紙本来の漉き柄の線が遠くの雨となる。
- 6版目 切り抜き版を作り銀の雨をする。
- 7版目 タイプ原紙を使い、プラスチック版を用意し、厚紙を乗せ、その上に原画のラインを写し採ったクリアポケットを乗せ周りをテープで止め、鉄筆と定規を使い原紙を切る。線は始めは弱くゆっくりと、中程はしっかり切り、最後は又ゆっくり弱く力を抜く要領で線を引き上げる。手前斜線の雨の版です。  
 (手を掛けた割にはものにならず残念です。)

学習会について

日時 : 9月11日(日)  
 会場 : ギャラリー鈴木  
 集言 : 吉人ライナー  
 吉人駅改札12:52  
 (参考:日暮里発12:24発 所要時間18分)

【簡易額縁の制作】(安田・鈴木)

軽い桐材をを使ってはがきサイズの額縁を制作する。時間の関係で素材は完成したものを用意し、ポンド等による貼り付けを主とするが、使用用具(のこぎり等)も今後の参考に用意する。  
 (各自用意するもの)  
 はがきサイズの完成作品。カッター、定規、マット、額縁用の材、マット紙、ポンド等はこちらで用意する。

7月の学習会報告

■ 表紙絵の説明 (13:00~14:00) (安田・三文字)

I 6月号の「レモン」(安田)

- ① 別紙資料に基づき説明。
- ② 重色効果を意識し、始めに黒を全面刷りする。
- ③ その後原画に基づき、ニス原紙(グランド原紙)をカッティングする。
- ④ アイロンで版貼幕(ポリエステル原紙)に貼り付け、全面を白刷りする。

